

登山月報



公益社団法人日本山岳協会の法人名変更について.....	1
第94回 Mountain World	3
新連載 「山の日」制定記念「ふるさとの山に登ろう」.....	4
Women's International Climbing Meet 2016	6
第19回JOCジュニアオリンピックカップ大会報告.....	9
平成28年度指導委員総会及び研修会報告.....	10
平成28年度自然保護常任委員研修会.....	12
JMA、寄贈図書、編集後記.....	13

公益社団法人日本山岳協会の法人名変更について

会長 八木原 罔明

本協会では、昨年11月にスポーツクライミングのオリンピック種目化を見据えて、諮問委員会を立ち上げ、

- ①スポーツクライミングのオリンピック種目化に伴う中央競技団体（NF）としての在り方と組織。
 - ②スポーツクライミングを統括するNFの名称。
 - ③スポーツクライミングの広報強化。
- の3項目について諮問し、本年4月21日に答申を受けました。

3項目の諮問については、次のような答申を頂きました。

- ①スポーツクライミングに特化した独自性の高い事業部等を設けて運営を行う。
- ②統括団体の名称と競技名称が同一であることとして、「日本山岳・スポーツクライミング協会」の名称が望ましい。
- ③専門知識を持ち、実務に秀でた人材を登用した広報戦略の強化。

本協会は、この答申を重く受けとめ、これまで常務理事会などで協議し、去る8月27日に臨時理事会を開催し、答申に対する対応を論議した結果、答申に沿った方向で取り組むことが決議されました。

答申の中で最大の関心事は、法人の名称変更でした。

本協会は、昭和35（1960）年に創立以来、「正しい登山を指導普及して、その健全な発達を図り、あわせて登山を通じて国民体育の振興に寄与する」ことを目的に、安全登山の普及啓発と山岳自然環境の保護、各種登山大会や国体山岳競技の開催、海外高峰登山や登山医学の研究、支援などに取り組んできました。

平成25年に公益社団法人となり、日本山岳協会が我が国の登山界を統括する団体として「安全登山を第一に山の環境と文化に配慮した登山及び山岳スポーツの普及振興を図る」ことを目的に、定款の変更をはじめ組織・運営体制の見直しを行い「安全登山とスポーツクライミング」を2本柱に、これまでの加盟団体中心の事業展開から、広く全国と登山愛好者やスポーツ

クライミング愛好者を対象として各種事業に取り組んでいます。

本協会が創立されてから56年の歳月の中で、登山界を取り巻く環境や登山の目的は、大きく変容しております。フロンティア精神を高揚させるような高峰登山や高難度を目指す登山は、昨今減少しています。多くの未踏峰が登られ、冒険的な対象が減ったことは事実ですが、社会そのものや若者の気質にも変化が起きていることがその背景にあると考えられます。既に、登山の質は、本協会が設立された頃のそれとは様変わりしています。昨今の登山者の多くは、心身を鍛え、技術を研鑽する登山ではなく、ガイド登山のようなツアー・旅行的登山となっております。また、昭和30年代の第1次登山ブーム時代に「3人寄せれば山岳会」と称されて創立された多くの山岳会も、60年、50年の歴史を重ねる中で、会員の高齢化が進み、年々減少傾向にあるのも事実です。

一方、本協会が長年携わってきた国体山岳競技は、変遷を重ねながら昭和55（1980）年第35回国体（栃木）に公開種目から正式種目（得点種目）に代わり、平成20（2008）年第63回国体（大分）からは、スポーツクライミングに特化したリードとボルダリングの競技種目を取り入れました。

スポーツクライミングは若者の心を掴み、多くの愛好者を増やしてきました。それが今日の普及・発展につながり、この度の東京2020オリンピックの追加競技種目に決定されたものと思います。

スポーツクライミングに真剣に組む選手たちの日常には、かつて我々が登山に青春をかけたのと共通の熱い心を感じます。ヒマラヤ登山やルート開拓、フリークライミングなどにかけた夢が、スポーツクライミングを担う若者にも継承されることが期待できそうです。

彼らのような真剣な若者を、もっと積極的に支援し、また本協会内で活動してもらうように誘導することを考えると、オリンピック種目になった今が好機です。日本中が熱中する注目度が高い場に、本協会のような団体が関与するチャンスは滅多にありません。今

こそ、志ある若者に本協会の存在をアピールし、本協会や本協会主催の行事への参加を促す絶好の機会です。

法人名から統括する競技が分かるような名称に変更する好機を「スポーツクライミングのオリンピック種目化」が与えてくれたと思っています。現状を鑑み将来を見据え、慣れ親しんだ名前を残しつつ、若い世代に夢を引き継いでいくことも考えて、新しい名称を「日本山岳スポーツクライミング協会」(英文名: Japan Mountaineering & Sport Climbing Association) にしたいと思えます。

ご意見をお寄せください。

以上

平成28年9月12日

公益社団法人日本山岳協会の 法人名変更に関する意見募集

1. 概要

公益社団法人日本山岳協会は、去る平成28年8月27日開催の臨時理事会において、の法人名変更に関する諮問委員会答申(平成28年4月21日)にもとづき、議論し、法人名を変更することを決議しました。

このことについて、広く国民の皆様からご意見をいただきたく以下の要領でご意見を募集いたします。

2. 意見募集対象

法人名変更にかかる意見

3. 資料入手方法

公益社団法人日本山岳協会ホームページ(<http://www.jma-sangaku.or.jp>)の「公益社団法人日本山岳協会の法人名変更について」をダウンロードして下さい

4. 意見の提出方法

意見書に必要な事項(氏名及び住所(法人または団体の場合は、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)、並びに連絡先(電話番号または電子メールアドレス)を明記のうえ、意見提出期限までに、次のいずれかの方法により提出してください。

(1)電子メールを利用する場合

電子メールアドレス: info@jma-sangaku.or.jp 宛て、「意見提出」を添付ファイルとして提出下さい。

(2)FAXを利用する場合

FAX番号: 03-3481-2395 宛て送付して下さい。

(3)郵送する場合

〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会

5. 意見提出期限

平成28年9月12日(月)から平成28年10月11日(火)まで(必着)

6. 留意事項

意見が800字を超える場合、その内容の要旨を添付してください。ご記入いただいた氏名、住所等は、提出された意見に不明な点があった場合などの連絡、確認に利用します。

また、意見に対する回答は、いたしかねますので予めご了承ください。

7. 問い合わせ先

公益社団法人日本山岳協会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

電話: 03-3481-2396 Fax: 03-3481-2395

E-mail: info@jma-sangaku.or.jp

快適なロッジに泊まりながら、タスマニア島を北から南へと縦走

タスマニア島 オーバーランド・トラック 10日間

発着地 東京(羽田) 旅行代金 ¥698,000

出発日 12/9(金)・1/6(金)・1/20(金)・2/3(金)・3/3(金)

※燃料サーチャージは、旅行代金に含まれています。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

 アルパイン ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com <http://www.alpine-tour.com>

日本山岳会百十周年記念出版

改訂 新日本山岳誌

日本山岳会編 この10年間で「動いた」日本の4000山を、会員の脚で再調査して改訂した最新の山岳大事典。18000円

インド・ヒマラヤ

日本山岳会東海支部編 この地域の日本初の最新登山記録集成。概説、概念図、写真、登山記録、登山史、文献を集約した必携の書。6000円

ヒマラヤの東 山岳地図帳

中村保 地球最後の未踏峰の宝庫(中国深奥部)を多数の写真・地図で明らかにした世界初の詳細な山岳地図帳。10000円

606-8161 京都市左京区

一乗寺本ノ本町15

www.nakanishiya.co.jp/

ナカニシヤ出版

TEL.075-723-0111

FAX.075-723-0095

[価格は本体価格]

第94回 Mountain World

パキスタン 2016夏の総括

池田常道

この夏、パキスタンの北部山岳地帯は天候不順に見舞われ、高峰登山は軒並み低調なシーズンとなった。K2の登頂成功は昨年に続いてゼロ、ブロード・ピークは2名、ガッシャブルムはI峰、II峰はそれぞれ8名、ナンガ・パルバット(8126m)は3名に終わった。

*

K2 (8611m)

最高峰エヴェレスト(8848m)に比べれば難しいと敬遠されてきた第2位の高峰も、商売になると気づいた公募隊が複数入るようになり、それを当てにした登山者も増加傾向にある。今季は、ネパール・シェルパを含めた外国人登山者118名が殺到したが、天候不順で好天期間は3日と続かず、降り積もった雪が各隊を悩ませた。7月10日にBCを発した70名による攻撃は14日朝、7300mのC3で敗退。シェルパとパキスタン高所ポーターを主体とする先遣隊は7月末にC3まで上がったが、状況が思わしくないためいったんC2まで退いた。その夜大雪崩がC3を襲い、荷揚げしてあった20万ドル相当の酸素ボンベを含む物資を流し去ってしまった。撤退しなければこの夜に数十人規模の登山者が第2次攻撃のためC3に泊まることになっていただけに、大惨事が避けられたかたちとなった。

この事故によって各公募隊は順次撤収、他の登山者も断念・帰国した。ミンマ・ギャルジェ・シェルパの率いる公募隊「ドリーマーズ・ディスティネーション」はこの後ガッシャブルムI峰に転じて登頂した。

ブロード・ピーク (8051m)

K2と併願した複数の公募隊は深い雪に行き悩んで主稜線のコルまで達するのが精いっぱい。彼らに頼らずアルパインスタイルで登攀したスロヴェニアのアレシュ・チェセンとルカ・リンディッチだけが7月12日に西稜から頂上を往復した。

フランスのアントワーヌ・ジラルは7月23日、パラグライダーで頂上を超える8157mまで飛行した。凍傷の危険を感じたためそこでやめたが、それがなければ8300mまで行けただろうと語っている。

ガッシャブルムI峰 (8080m)

K2を諦めた「ドリーマーズ……」隊が8月8日に8

名を通常ルートから登頂させた。II峰との縦走を企てたスペイン隊(アルベルト・イニユラテギ隊長ら3名)とポーランド隊(ヤーツェク・ガウリシヤク隊長ら9名)はいずれも断念した。過去3回にわたって南西壁ダイレクトを試みてきたマレク・ホレチェク(チェコ)はオンドラ・マンドウラと4回目に挑んだが、7700mで敗退した。この壁は1983年のクルティカとククチカ(ポーランド)が南東稜へ、2002年のババノフとアフアナシエフ(ロシア)が西稜にそれぞれ抜けているが、頂上までダイレクトに登った者はまだいない

ガッシャブルムII峰 (8034m)

7月26日、8名が頂上に立った。今季はイラン隊など5隊24名が許可を得ていたが、成功した隊の内訳は明らかではない。

ガッシャブルムIV峰 (7925m)

前記したチェセンとリンディッチが7月26日に北西稜から北峰(7900m)に登った。北西稜は第4登だが、最高点まで行ったのは、初登攀の86年米=豪隊と99年韓国隊だけである。

ナンガ・パルバット (8126m)

パキスタン・タリバン運動(TTP)のテロで11人が犠牲になったディアミールBCに、3年ぶりに夏の登山隊が戻ってきた。その数6隊19名だが、頂上に立ったのは3名だけだった。

フランスのヤニック・グラジアーニとエリアス・ミレルー、スペインのフェラン・ラトーレは北峰I(7816m)西壁からバツインシャルテに出てブールの初登ルート(1953年)に継続しようとしたが、ビバーク4回で7月11日、北峰直下の7800mに達したところで強風に追い返された。ブルガリアのボーヤン・ペトロフとイワン・トモフは上部で62年西壁通常ルートへとトラバースしたが、7月14日、バツイン盆地から頂上ピラミッドに向かうガリーが見つからずに敗退した。

一方、西壁通常ルートでは、下部のキンスホーフアー・ウォールに通じる氷化したガリーにてこずり、ルートは伸びなかった。ラトーレ、ミレルー、ペトロフは7月26日、こちら側から改めて頂上を目指し、7月26日に頂上を往復、これが今季唯一の登頂となった。

ティリチ・ミール (7708m)

フランスのジェローム・シャゼラとトマ・キーユが67年チェコスロヴァキア・ルートから登頂。C3・C4間でバリエーションを採ったという。なお、下山途中で入山してくるロシア隊に出会ったというが、彼らの成否に関する情報はない。

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

和歌山県・生石ヶ峰(標高870m)

高野山から西へ延びる長峰山脈の一角をなしている生石ヶ峰(標高870m)は生石高原の主峰です。山頂からは12haにもおよぶ近畿唯一ともいわれるススキの大草原がひろがり、車道が頂上のちかくまで伸びていることもあり、春の新緑、秋のススキのシーズンには関西一円から、数多くの観光客がその自然に触れることを目的に集まってきます。

登山にはマイカーがおすすめ。ふもとの小川宮(駐車場10数台あり)までは阪和高速道海南東ICから東進20分程度です。

小川宮～大観寺～弘法大師の押し上げ岩～龍王水～山頂にいたる「直登コース」を登山に使い、山頂～生石神社～狼岩～桜の小径～小川の宮に至る「桜の小径コース」を下山に使う周遊コースが、NPO法人生石山の生石大草原保存会や山岳会KRCにより整備されておりよく使われています。

最近、地元小川地区寄合会のみなさんにより西側の尾根を登る「名寄松コース」も開拓され、「桜の小径コース」から登って生石ヶ峰を経て「名寄松コース」で下山するロングトレッキングも楽しめるようになりました。

生石ヶ峰は、弘法大師が、聖地を求めてあちこちを訪ね歩いていたときたどり着いた山といわれることからたくさんの伝説が残る山です。

「直登コース」途中にある通行のさまたげになる大きな岩を押し上げた手形の残る「弘法大師の押し上げ岩」、山頂からの素晴らしい景色を一筆したためようと足元から清水を湧き起こした「硯の水」(「硯の水」のあるあたりは保水力のない頂上直下にあるのですが、日照りが続いても枯れることがない不思議な湿地帯になっています。)、はるか東に高野の峯を見つけ「これこそ求めた聖地」と喜びのあまり山頂に忘れていった笠



笠石

が石になった「笠石」などがあります。

大草原では四季折々の植物が観察できます。秋のすすきが有名ですが、春にはたくさんの種類のスミレが咲く高原として有名です。なだらかな双耳峰の東側のピークが生石ヶ峰山頂です。山頂からは、360度の大展望が開け、北は和歌山市の市街地から紀泉山脈のむこうに明石海峡大橋と六甲山、東は高野山から大峰山脈、西は紀伊水道のむこうに淡路島や四国の島々が遠望できます。そして南は、祈りの道熊野古道の山々がはるかに続きます。

山頂からの景色でおすすめなのは夕方から暗くなるまでの時間です。秋の夕暮れには、すすきの大草原が金色のかがやきから燃えるような赤色に刻一刻とその色を変えていきます。日が暮れば県都和歌山市の夜景と、関空を離発着する飛行機や遠く明石海峡大橋のナビランプ。南側には有田川沿いの街々の灯りがみえるのですが、川の蛇行と小丘陵の影のいたずらで、夜景でつくられた巨大な「？」マークが浮かび上がります。南の熊野の山々の切れ目からは、ヘッドランプのような太平洋にうかぶ漁船の漁火のきらめきが見え、あんな高いところに海があるのか！と驚かされます。

「直登コース」 登り3時間程度 下り2時間程度

「桜の小径コース」 登り4時間程度 下り3時間程度

「名寄松コース」 登り4時間程度 下り3時間程度



生石ヶ峰 秋の夕暮れ



生石神社

Women's International Climbing Meet 2016

開催日時：2016年6月12日(日)～19日(日)

場 所：North Wales

参加者：篠塚 優

今回のmeetはBMC(英国山岳評議会)所属のPinnacle Clubが主催し、女性限定で広範囲のグレード・経験の人達を集めてトラッド・交流を楽しむというものでした。トラッド経験の少ない人も含めて参加人数はゲストが22名、UKホストが80名前後となり、日々出入りがあり、誰がいつどこにいるかはよくわからなかった。

朝までにクライミングパートナーが発表になり、行く場所もパートナーと話を決めていくスタイルでした。

参加費：£180(マンチェスター空港からの送迎、三食含む滞在費用すべて)

〈活動内容〉

6/12 マンチェスター空港→Ynys Ettws

この日は移動のみ。空港で数名と合流してミニバスでHutへ移動。

夕飯はHutから車で移動してCaffi Cabanというところで。ほとんどの夕食をここで食べました。Hut内で翌日以降の説明があり、解散。

6/13 午前：インストラクターによる講習(Hutにて) 午後：インストラクターによる講習(岩場にて)

午前中はトラッドクリニックと呼ばれるアンカー作成、セルフビレイの取り方や懸垂下降の手順の講習があり、ゲスト10名前後が参加。

午後はトラッド経験の少ない私他3名がインストラクター2名+UKホスト1名についてもらい、Lion Rockというとても易しい岩場でナチュラルプロテクションのセットの仕方、アンカーの作り方を学びました。午前中に降雨があったものの、岩場は乾いていました。易しいなりにマルチピッチの手順を学びながら登り、岩の一番上に立つと景色が広がりとても気持ちがよかったです。その後、Bus Stop Quarryに移動し、slateと呼ばれる石切り場の近くの岩を登りました。日本では登ったことのない岩質で、割れそうな細い縦フレーク、スタンスの少ない独特の雰囲気でした。セカンドでSolstice(HVS 5a)のルートをやつ回収しながら登りましたが、やつのセットが少し難しそうなルートでした。リードだとこのグレードは少し私には大変そ

うという目安になりました。

夕食時、クロアチアとインドの方のスライドショーがありました。クロアチアのクライミングエリアのロケーションは素晴らしかったし、インドヒマールの麓にあるボルダーエリアもとても興味深かったです。

6/14 午前：Carreg Wastad / 午後：ランベリスにてショッピング、DMM工場見学

この日もインストラクターの方について岩場へ。マルチピッチだとピッチを切る場所を見つけることに自信がないため、1ピッチ目を先に登ってもらうことにしましたが、私が登る頃には雨が降り始め、岩場がびしょびしょに。しかし、途中で降りるための支点もないのと、易しいルートだからということで後2ピッチ登るといふ。滝のようになった岩場をリードする自信がなく、全てセカンドにしてもらいましたが、近くで登っていたパーティも含め、皆笑顔で登っており、UKでのクライミングはこういうシーンでも皆楽しめるのかとショックを受けました。例えるなら、一ノ倉沢の入門ルートで雨に降られているような感じでしょうか。下降は歩いて降ります。今回行ったほとんどのルートは、歩いて降りられました。トポを見ても基本的にほとんどのルートに下降路があるようです。徹底したトラッド文化を感じました。

降雨がひどいため、午後はランベリスの町でショッピングと、DMMの工場見学となりました。ギアが作られていく行程をほぼすべて(色付けは別の場所で行われている)見学し、DMM製品の質の高さに納得しました。

夜は日本のクライミングの写真を見せつつスピーチをさせてもらいました。英語がほとんどできないため、文章を書いて持って行きましたが、少しでも色んな国の方が日本に興味を持ってくれたら嬉しいと思いました。



Hut

6 / 15 午前：Clogwyny Grochan

午後：Holyhead Mountain

今日もインストラクター1名とUKホスト1名と私ともう一人のゲストの4名で行動。朝からすっきりとした晴れ間に恵まれ、Hutから歩いて10分くらいの岩場で2ピッチのクライミング。やっと英語のコールや向こうのロープ操作、ナッツを使うことなどに慣れてきた。ここは2ピッチ目の終了点に立ち木があり、懸垂用のマイロンがあった。懸垂下降の結び目はオーバーハンドノットでした。懸垂時は必ずプルージックでバックアップをとっていたが、そのバックアップのカラビナはレググループにかけていたのが印象的でした。

何がしたいかを向こうの方達はいつも聞いてくれて、色んなエリアに行ってみたいという希望を言うと、午後は場所を移し、海の方へ。花崗岩によく似た岩質のエリアで、すっきりしたクラックがあり、岩も固くプロテクションが取りやすかったのと、クラック登りが少しでき、且つルートが明確で同じグレードでも午前中の岩場よりも登りやすく感じました。このショートルートのエリアにも終了点はもちろんないので、アンカーを作ってセカンドをビレーし、セカンドがギア回収、登り終えたら歩いて戻るというような流れでした。毎回岩の上に立てるのが楽しいです。

この日だけ夕食はGallt y Glyn Hotelで。1人前でも大きなピザが出てきて驚きました。

6 / 16 Tremadog

この日からUKのホストクライマーと2人で登ることに。山は雨が降っているため、車で1時間ほどいったところにある岩場へ。こちらも下部は濡れていましたが、易しいルートから登ろうと言われ、登ることに。本当にいつでも登ることを楽しむんだなあと思いました。この日はDiffのグレードから始め、計3本のルートを登りました。

最後は眺めのいいルートがいいなと言うと、最後に壁の真ん中を登るReinetta (H S 4 a 25m / 4 a 18m / 4 a 21m)を選んでくれてとても高度感があっていいルートでした。全て岩のてっぺんに立てるので登った！という実感があります。下部が樹林の中なので、少し虫が多い岩場でした。

6 / 17 South Stack

今日はどこへ行きたいと言われて、海がいい、と答えると、シークリフへ案内してくれました。同じ所へいくパーティと車を同乗させてもらい移動。あたりは有名な観光地のようで、観光客も結構いる。駐車場から5分くらい歩くと懸垂下降点にたどり着くほど近い



Bus Stop Quarry

です。さすがに懸垂下降点には残置のハーケンが何本もあり、それにナッツで補強をしてスタティックロープをフィックスしてくれてそれで下降。

懸垂下降点から下は見えず、60mの懸垂でちゃんと壁の途中のビレイポイントへと降り立てるのか不安がありました。ロケーションの素晴らしさは今回一番でした。易しいグレードでもルートが読みにくかったり、ワイルドな感じがするエリアです。

ここでは2本登り、2本目に登ったP e 1 (V S 4 c 30m / 4 b 30m)の1ピッチ目のリードが今回一番大変でした。これほど長いトラッドルートはほとんど経験がなく、前半戦でギアをかなり使って、後半プロテクションが取りにくくなってしまい大変時間がかかってしまいました。登りそのものだけでなく、ルートを読む力、そしてそのルートの長さを考慮したギアの選択・セットなども含めてトラッドは本当に考えることが沢山あり、それが面白さでもあるのだとこのルートを通して改めて感じました。

日本にはこういったロケーションのエリアはないと思いますのでとても素晴らしかったです。

6 / 18 Tremadog

最終日、毎日少しずつでも登っていたため、この日はのんびりと買い物しながら移動。2本登りました。

1本目は本当に易しいSのルートでしたが、2ピッチ目をリードさせてもらい、ムーブ的な難しさはないものの、プロテクションのセットがしづらく時間がかかってしまいました。前々日に1名このムーブで落ちて怪我をしていたようで(プロテクションは外れなかったがグラウンドしたらしい)、ダブルロープでこういうルートを登る時は落ちたらどうなるかをイメージして

おくことも重要だと改めて思いました。

最後に Grim Wall (V S 4 b 30m / 4 c 25m) を2ピッチともリードさせてもらい、終了。

1ピッチ目は大トラバースでロープのクリップが難しかったのと、2ピッチ目はルートが読みにくいこととプロテクションのセット場所がみつけにくくて難しく感じましたが、面白いルートでした。

この日は最終日でクイズ大会など行われました。内容はかなり難しく英語でなくてもわからなかったと思います。毎日23時近くまで皆タフでした。

6 / 19 8:30のミニバスでマンチェスター空港へ。
各自解散

〈感想〉

まず、多くの人が抱いている怖い・危険というイギリスのクライミングのイメージと違い、本当に易しいグレードから(日本の岩稜縦走レベル)沢山のルートがあるのだということが印象的でした。そしてそのほとんどが残置物がなく、アンカーも含めたプロテクションを全て自分でセットしなければならないという。その分、ガイドブックは写真でルートが示されていたりするので慣れてくるとどこでピッチを切るかはわかってくるのかもしれませんが、1ルート毎に冒険性が高く、ムーブが易しかったとしても楽しめるのだと感じました。

全体的にすっきりしたクラックのルートというよりも、フェースっぽく、ルートを読む力が求められたり、ガタガタの狭いクラックが多いので、カムよりもナッツなどのパッシブプロテクションを多用したり、ルートが蛇行していることも多いので、ダブルロープ使用が基本など、色々慣れない点が多かったです。ただ、そういったプロテクションのセットをしてきた方々に自分のセットしたギアが効いているかなども確認してもらえてとても勉強になりました。アンカーは基本固



Clogwyn y Grochan



インストラクターのCathとホストクライマーのJoanneと

定分散で、極力3つ以上のプロテクションを使い、支点ビレーはほとんどしないようでした。

この時期のイギリスは22時頃まで明るく、且つ岩場は車を降りてすぐの所にあるようなエリアも多いため、19時くらいから登りに来るクライマーも沢山いて、外でのクライミングがすごく身近にあってとてもいい環境でした。

今回、トラッドの経験が少ない私が参加させてもらえることになり、本当に大変貴重な体験をさせていただきました。海外でのクライミング経験もなく、また、英語自体もほとんどわからないため、ホストクライマーの方たちにも大変な思いをさせてしまったのではと思っています。でも、これだけ沢山の女性がトラッドを楽しんでいるなんて、日本では考えられないし、そういう方達と少しでも登れてまた楽しみ方が増えたように思います。

このような機会をくださり本当にありがとうございました。



お世話になったHilaryと

スポーツクライミング 第19回JOCジュニアオリンピックカップ大会報告

富山での開催が16年目となる第19回JOCジュニアオリンピックカップ大会が、8月13,14,15日の3日間、南砺市の桜ヶ池クライミングセンターにおいて、男子133名、女子92名、合計235名の過去最多の参加選手数で行われた。例年8～9月に開催されることの多いIFS C世界ユース選手権大会が、今年は11月に中国広州市で開催されるため、この大会がその選考大会となった上に、スポーツクライミングが東京五輪追加競技に正式決定後の最初の全国大会となったこともあり、選手の意気込みは例年以上のものであった。

1日目と2日目の予選は、例年通り男子ユースCは女子と同じルートで競技を行い、男子のユースB、ユースA、ジュニアが男子ルートで競技を行った。フラッシング方式で、1日1本ずつ2日間で2本のルートを登った予選の総合成績により、各年齢別グループの出場選手数にもとづいてあらかじめ決められた人数の選手が3日目のオンサイト方式の決勝に進出した。今年の決勝ルートは従来と違い、セッターチームの工夫によって、男女ユースCは向かって左側の固定壁からスタートして上部で男子決勝ルート上部にホールドを追加した部分に合流してゴールするという独自のルートとし、ユースC以外の男子は左側の可動壁からスタートして左固定壁に渡ってゴール、女子は右側の可動壁からスタートして右固定壁に渡ってゴールというルートで実施した。

予選の2日間は天候に恵まれたが、最終日はあいにくの雨模様となり、最初に実施した男子ユースCの決勝の後に続いて行っていた女子ユースCの決勝の途中で風雨がかなり強まり、競技を中断してルート状況を確認した後に協議の結果、雨の影響が比較的少ない奥の可動壁からスタートする、ユースC以外の男女の決勝を先に実施する決断をして、約1時間のルート整備の後に競技を再開した。その後は次第に天候が回復したため、男子

決勝ルートが終了した後、左固定壁上部に追加していたホールドを外してユースCの決勝用に戻し、中断していた女子ユースCの残りの決勝競技を最後まで行った。結果的には、右の壁で女子ジュニア最後の田嶋あいか選手が登っている時に左壁で女子ユースC最後の森秋彩選手が登るといった場面が見られ、盛り上がりを見せて競技を終えることができた。

入賞者は別表の通りだが、男子ではユースAの田中修太選手とジュニアの波田悠貴選手が決勝同高度となり、予選成績へのカウントバックにより田中選手が総合優勝のクリスタルカップを受賞した。女子ではジュニア優勝の田嶋あいか選手が前人未達の3年連続3度目の総合優勝を達成。決勝を別ルートで実施したユースCでは、男子が田中裕也選手、女子は今年6月のリードのジャパンカップでも優勝した森秋彩選手が優勝。残念ながら決勝ではどのルートも完登者が一人も出なかったが、設定グレードは、予選は男子ルート2本が13b、女子ルート2本が12d、決勝は男子ルート13c、女子ルートおよび男女ユースCのルートが共に13a/bであった。

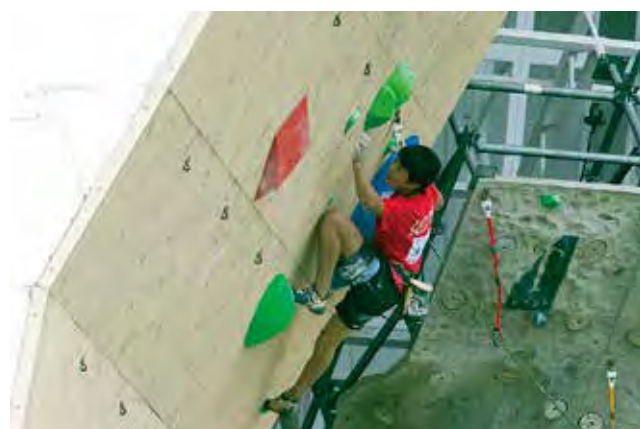
全国の様々な地域から、若く強い選手が育ってきていることを強く感じた大会であった。

予定より約1時間の遅れですべての決勝競技を無事に終えることができたのは、迅速、適切な対応をされたルートセッターはじめ、すべての競技役員の皆様のご協力のおかげであったことを、あらためて感謝申し上げます。また、この大会の成績などにより世界ユース選手権大会リード日本代表に選出された選手の皆様には、さらに練習を重ね、ボルダリングに負けないような優秀な成績をあげられることを心から期待しております。

(審判長 目次俊雄)



女子 田嶋あいか



男子 田中修太



男女総合優勝選手

男子総合優勝	女子総合優勝
田中 修太 (新潟)	田嶋あいか (三重)

男子ジュニア		女子ジュニア	
1位	波田 悠貴 (埼玉)	田嶋あいか (三重)	
2位	野村真一郎 (茨城)	善村 萌 (三重)	
3位	大高 伽耶 (東京)	大河内芹香 (長崎)	
男子ユースA		女子ユースA	
1位	田中 修太 (新潟)	高田ころろ (鳥取)	
2位	本間 大晴 (埼玉)	菊沢 絢 (千葉)	
3位	土肥 圭太 (神奈川)	清水 夏子 (千葉)	
男子ユースB		女子ユースB	
1位	轟本 直生 (佐賀)	伊藤ふたば (岩手)	
2位	小西 桂 (神奈川)	栗田 湖有 (新潟)	
3位	三根生慶太 (大阪)	小島 果琳 (岐阜)	
男子ユースC		女子ユースC	
1位	田中 裕也 (岐阜)	森 秋彩 (茨城)	
2位	高山 優槻 (茨城)	島田 祐生 (大阪)	
3位	兼城 雄太 (宮崎)	谷井 葉月 (奈良)	

平成28年度指導委員総会及び研修会報告

平成28年6月11日～12日、今年度の指導委員総会及び研修会が行われた。全国から指導委員及び関係者が42名、常任委員・講師17名を含めると総勢58名と、昨年とほぼ同じ参加者数で行われた。(出席40、欠席7都道府県)

亀山副会長からの挨拶では、山岳団体の問題点及び改善点の話があり、山岳会などの減少が、関東ブロックで前年比80.1%、近畿ブロックで前年比88.0%となっている。対策をお願いしたい。そして、瀧本指導委員長より、指導者養成講習会も若い人の申込が増えてきており、良い傾向にあるとの挨拶で始まり開会した。

【規約改定・義務研修について】

今回の規約改定の大きなところは、指導者資格を山岳とスポーツクライミングに分離。指導実績は所属山岳会に加え、新たに“グループ登山”での実績も含まれる。個人会員も受講条件を満たせば指導者資格が可能になる。など新たな登山者事情に合わせた改定になった。

また、日本体育協会指導者管理システムへの、個人でのマイページ登録の再度確認をした。

【研修会】

今年の研修会は“山のグレーディング”について、静岡大学教授村越真先生に講義をして頂いた。

現在、長野県・山梨県・静岡県・岐阜県・新潟県がグレーディングを行い、群馬県も検討中との事。このグレーディングは、登山者の増加に伴い、体力低下を意識しない中高年登山者や、山の怖さを知らない初心者の山岳遭難事故が多いことから、自分の力量にあった山選びが行えて遭難事故防止につながることを目的

に長野県からスタートした。

また、海外のグレーディングシステム事例と、日本のグレーディング技術ランクの比較では、色分け指標(スイス)、イラスト技術指標(ニュージーランド)、数値技術指標(オーストラリア)などの海外事情を紹介して頂いた。今後のグレーディングのヒントになるのではないと思われる。

また、遭難件数の分析では60歳代の転倒と若い人の道迷いが多く、50歳代女性の遭難が少ないのは意外であり、ガイド登山などで安全に行動しているのか?など、グレーディングの重要性を講義して頂いた。

質疑応答では、近年増えつつある外国人登山者へのグレード表記はどうするのか?安易に困難を追い求める指標にはならないか?など、変化してきた登山者事情に関する質問があった。

昔は山岳会が後輩・新人を指導・育成し、実力以上の山行を計画すると、行かせてくれず、自然とグレーディングを教えるに慣れてきた。しかし、山岳会が減少している中、SNSつながりの新たな登山グループや外国人登山者なども含め、時代の変化に応じた対応を考えさせられる研修会であった。

【総会】

○平成27年度指導委員会事業報告と平成28年度指導委員会事業計画報告

○平成28年度日山協の義務研修会の決定事項

主な点としては平成28年4月1日より都道府県体協が行う“エンジョイスports講習会も義務研修として認められる。各岳連は体協のホームページで確認してください。日山協からは案内しません。

今まで認められていた講習会講師の義務研修実績は認められないとの体協からの回答があり、講習会を行

う上での講師の勉強会や研修会を行うのであればOKとの事。文言には注意願います。

また、免除申請の入力は、代理でも可です。

○登攀研修会、氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会の平成28年度開催県(長崎)の確認

平成29年度の氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会開催県は福島県に決定した。

また、氷雪技術研修会については例年どおりの大山と富士山に決定した。

尚、主任検定員は、B級に関しては夏山リーダー(U I A A)資格制度も進行中であり、必要ではないかとの意見もあり、検定もA・B一緒のグループで検定して検定基準に準じて判断してはどうか。などの意見もあり、今後の検討課題。

○S Cコーチ養成講習会について

全国で10人しかいない為、早急に増やさなければならぬ。

尚、瀧本委員長よりS C養成講習会について補足があり、競技委員会へのS C養成講習会移行の話も出ているが、当面は指導委員会で行う。

○近畿ブロックの合同S C養成講習会の開催事例について(兵庫：西村)

近畿山岳連盟(2府4県)にて行っている。S Cは兵庫が担当。A Cは上級も含め大阪が担当。

○中国ブロックの合同S C養成講習会の開催について(広島：後藤)

10月下旬から11月にかけてS C養成講習会を検討中(広島・主管、会場・山口)

○夏山リーダー資格について

昨年度より指導・遭対メンバーにより検討を始めており、U I A A規格をすでに取得している国を紹介、その中で英国を例に、技術検定内容・講習料金などを比較説明する。

質問として、夏山リーダー資格のメリットは何か。

モンベルや好日山荘などの同じような講習会は盛況、などの意見が聞かれた。企業利益の中で相殺される講習会と公益法人が行う講習会とでは、根本的に目的は違うと思うが、改善点があれば検討する余地もあるのではないか。

○平成28・29年度の日体協公認スポーツ指導者等表彰の候補者推薦案

平成28年度日体協表彰：亀田行宣(石川)、西原斗司男(兵庫)、雨宮節(沖縄)

平成29年度日山協表彰：古屋寿隆(山梨)、山根幸雄(山口)、小山幹(宮城)

○平成28年度の日山協指導委員会担当の発表(蛭田)

各担当委員は、担当マニュアルを作り、引継ぎ時がスムーズに移行できるようにして頂きたい。

【ブロック別意見交換会及び発表会】

テーマ：ブロック単位の養成講習会の開催について、近畿の例を聞いて、他のブロックでも可能か？

☆Aブロック：北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島(担当：瀬藤、廣川)

1. 県単位で行うと人が集まりづらい、ブロック別で開催すれば集まりやすい。

2. 毎年、日山協主催でS C主任検定員講習会を行ってほしい。

☆Bブロック：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟(担当：鈴木(由)、野村、鈴木(一))

1. 日山協である程度ブロックを決めて貰いたい。

2. ブロック別指導員養成講習会は開催して貰いたい。

☆Cブロック：富山、石川、福井、静岡、愛知、三重、岐阜、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山(担当：蛭田、堤、藤江)

1. ブロック別に疑問もある。北陸をどのブロックにするか？

2. 指導員登録に時間がかかり過ぎる。

3. Cブロックは近畿が中心なのでS C上級をお願いしたい。

☆Dブロック：鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、徳島、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄(担当常任：瀧本、石原、切嶋)

1. 会場が少ないのと、S C主任検定員が少ないのが問題

2. S C資格について、ジム関係者と日山協では考え方に相違があるのではないか。

3. 競技会などを行うにあたり、S Cを知る岳連関係者が少ないので、ジム関係者に頼らざるを得ない。

以上、いろいろな意見が出て討議された。

最後に、亀山副会長より、挨拶を頂いた後、瀧本委員長の閉会挨拶で平成28年度指導員総会は終了した。

平成29年の開催は6月3日(土)～4日(日)の予定。

ボルダリングジャパンカップ2017 BJC一般参加選手選考会の開催

第12回ボルダリングジャパンカップに際し、優先出場権を持たない一般参加選手の選考会を実施します。

12月10日～11日 深谷クライミングヴィレッジ

詳しくは、<http://www.jma-sangaku.or.jp>

平成28年度自然保護常任委員研修会

平成28年度自然保護常任委員研修会が、6月18日～19日（1泊2日）、山梨県河口湖町の三つ峠山荘で開催され、39名が参加した。この日集まったのは、常任委員のほか常任委員出身岳連の自然保護委員。「希少種の保護と現状」を主題に、講師に三つ峠山荘主人の中村光吉氏を訪ね、実地を踏まえた研修を行った。

当日、幸運にも梅雨の晴れ間に当たって、富士山を眼前にした風光明媚な三つ峠の自然を教室に、第1日目はレクチャー、第2日目はフィールドで実地研修となった。

第1日目のレクチャーでは、前半を中村氏による富士山の歴史に始まり、三つ峠地区の植生保護の状況や問題などビデオを交えての説明、後半を山梨岳連の磯野澄也自然保護委員長から「めだかの学校」活動（児童など幼年登山の支援）や山梨岳連の自然保護状況を説明。

講演のあと、坂口三郎日本山岳協会顧問の発声で挨拶と乾杯が行われ、各自が手持ち上げた酒杯で懇親を深めた。

（中村光吉氏のレクチャー概要）

三つ峠からは海が見える時期があった。富士山の原型が出現したのは、今から2～300万年前、その前の富士山周辺はまだ海の底で、太平洋の波が御坂山塊の裾にせまって、東に丹沢山地、西に天子・赤石山地が連なっていたようだ。その証拠にここの岩場で採取した貝の化石をお目に掛ける。要はこの地域は古くから陸地として存在して、それなりの生態系を築いてきた。アツモリソウをはじめとするラン科植物は8000万年もの長い歴史を持つ花である。この地はラン科植物のアツモリソウの自生地として広く知られている。嘗て、登山道脇にたくさん見られたといわれているが、盗掘（盗採）などの憂き目に遭い、ここ50～60年で大きな危機を迎えている。

山梨県では「山梨県高山植物の保護に関する条例」を1986年4月1日から施行し、キタダケソウ、アツモリソウなど22種を特定高山植物に指定。また、1994年以降に国法（種の保存法）による希少種にキタダケソウ、アツモリソウ、ホテイアツモリが指定され、採取、譲渡が全面的に禁止となった（希少種の指定はその後数を増やし現在では11種）。山梨県は希少植物保護の先進県である。

また、踏みつけやシカの摂食圧による生態系のバランスの崩れから、ササやテンニンソウ、それにヤマドリ

ゼンマイがテリトリーを侵害して増え、アツモリソウにとっての脅威となっている。また、カラマツなど周囲の樹林が旺盛となり、アツモリソウにとって日照不足による生育の障害を引き起こしている。

アツモリソウは土壌中のラン菌と共生しており、空気層が富んだ「フカフカ」なラン菌が好む土地が即、アツモリソウ生育圏となっている。またアツモリソウの種子は微小で内部に養分の蓄えが無く、ラン菌の助けを借りこれが地中で10年もの長時間を掛けて実生として初めて地上に姿を現すとされる。荒れた土地柄に変わってしまうと、アツモリソウの増殖や成長、さらに花を咲かせるために必須であるラン菌の活性が大きく低下してしまう事態を引き起こし、花は咲かなくなってしまうのである。

三つ峠では、行政や地権者の許可をもらい全国に先駆けていち早く防護柵を設置して鹿の食害から山を守って来た。さらには積極的に植生を取り戻す取り組みも行われており、テンニンソウや笹を取り除く作業にボランティアを募って行っている。

（磯野澄也氏のレクチャー概要）

めだかの学校は養護児童を対象に、山登りへの関心引出し、実際に登山を行う支援活動として、8年間で17回ほど金峰山などを山梨岳連のメンバーとともに登山を行ってきた。また、ネットを使ったクラウドファンディングを取り入れて、それらの活動に役立てることをおこなった。これらの活動を通し、関係者から、明るくしっかりしている子が多いとの賞賛を受けた。また、クラウドファンディングでは好成績をあげ、差益金全額を施設に寄付した。

山梨岳連では150名を超える山岳レンジャー活動が展開されており、県内各山岳のパトロールを行っている。レンジャー研修会も年2回開催しており研鑽に当たっている。活動結果は膨大な報告書にまとめ上げられている。昨今の山岳トイレの有料化など自然保護委員会では、登山時には小銭を持つよう呼びかけている。



また、里山の荒れ果てた登山道を復活させ、温泉付きで気軽に登山できるとし、過疎の町の復活にも岳連メンバーが協力している。

第2日目、山梨岳連 古屋寿隆会長の挨拶のあと、中村光吉氏の案内でフィールドスタディーが行われ、自生の様子、土壌の様子、立地条件、テンニンソウやヤマドリゼンマイの寡占化の状況を視察した。2時間ほどの視察のあと、実際にテンニンソウの除草作業を行い汗を流した。除草作業後、山梨県自然保護委員の吉野泰弘氏から保護の行き届いている三ツ峠のカモメラ

ンと無法地帯になっている別の山のカモメランでは大きな違いが出てきていること、保護のために自主的にロープ設置などの作業を行っており、もはや待った無しの状態に陥っていることなど。さらに最近櫛形山で発見された希少植物の保護の取り組みについてなど、フィールドスタディーのサマリーがあった。

丁度、12時となって、山荘へ戻り、カレーライスや蕎麦の昼食を摂り、満腹のあと三々五々の解散となった。

(記 自然保護委員長 松隈 豊)



平成28年度(28年8月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成28年8月4日(木)
連絡部会 18時～19時30分
常務理事会 19時30分～21時
場所 岸記念体育会館・4F 特別会議室
出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京
オ、瀧本、仙石、水島各常務理事、相良
財政、西原競技運営、中島監事
委任：中瀬常務理事、増山理事、澤田、
小日向、山本、松隈、角田の各委員長
22名中 15名出席)

会長挨拶

本日午前中は東京2020五輪のスポークライミング種目化正式決定の記者会見を行った。やっとここまで来た、という気持ちである。今後とも宜しく願います。

1. 議事

- (1)平成28年度7月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)
事前に配布しており、異議なく承認。
- (2)平成28年度臨時理事会次第について
一部加筆訂正で承認。
- (3)諸規程改定について
國松副会長から資料に基づき議案説明があり、質疑応答の後、提案通り理事会に諮ることで承認。
- (4)海外登山奨励金・交付登山隊の決定について
議案の通り以下の4隊への交付が承認された。奨励金は、4隊各20万円。
 - 2017パタゴニアビックウォールフリー遠征隊
 - GiriGiri Boys Patagonia Expedition 2017
 - 日本ルンポ・カンリ登山隊2016
 - Kang Nachugo Expedition 2016
- (5)世界選手権・リード日本代表選考について
提案された。男子4名、女子2名の選手派遣が承認された。

- (6)会長諮問委員会答申の対応について(続き)
小野寺事務局長が資料に基づいて議案提出を行った。それに基づき、質疑応答があり、一部加筆訂正して臨時理事会に諮ることが承認された。
名称については、答申案の「・」を削除した案を提案することで承認された。

2. 報告事項

- (1)7月度会計月次報告について
相良財政担当理事から資料に基づき報告があった。
- (2)熊本地震義援金について
7/14現在、日山協として796,809円との報告があった。
- (3)国体・北信越ブロック大会報告
西原委員長から北信越ブロックでの判定問題の報告があった。
- (4)スポーツ文化フォーラム東京大会について
小野寺事務局長から資料に基づいて説明があった。
- (5)「平成27年度日本山岳協会監査所見に対する今後の対応」に対しての補足説明
尾形副会長から資料に基づいて報告があった。臨時理事会に提出し、承認されれば、正会員にも送ることとする。
- (6)平成28年度専門委員会・委員の決定について
小野寺事務局長から前回の追加・訂正が報告された。資料に基づき報告があった。
- (7)対内閣府事業報告について
小野寺事務局長より報告終了になったことが報告された。
- (8)スポークライミングの五輪種目化について
尾形副会長から五輪種目化の一連の経過報告と次年度以降のスポンサー契約の交渉経過が報告された。
- (9)韓国・中国・アメリカ・日本でレスキュー技術研修会について
西内登山部長より報告があった。
- (10)山のグレーディングについて
西内部長から今後の日山協としての取り組みについて報告。

3. 指導員・審判員 検定結果報

(長野) 検定会 5/14～5/20
山岳指導員：横澤充、阿南卓治
山岳上級指導員：市川謙
異議なく承認された。

4. 後援、協賛等の依頼について

- (1)「24回ハセツネカップ」後援依頼承認について(交付済)
異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

7月(7月12日～7月31日)

[報告]

- (1)ジュニア・普及委員会
7月12日(火) 出席者3名
ア)立山ジュニア登山教室2016について
 - 応募状況：男子5名、女子2名
 - 参加スタッフ：女性：3名、男性7名
 - 立山ジュニア登山教室2016下見報告
 - 往訪者：本木、西内、中瀬、佐伯
- (2)国際委員会
7月19日(火) 出席9名、委任2名
ア) IRAN Youth Summer Camp 2016 締め切り8/5、公募見送り
イ) Pinnacle club/BMC Women's International Climbing Meet 2016 篠塚氏6/20帰国
ウ) A A C International Climbers Meet 見送り
締め切りまでの時間が少なく、公募体制を取れずに見送り
- エ) Turkish Mountaineering Federation 18th International Victory Climb To Mount KAÇKAR
イスラム圏の政情を鑑み、公募を中止
- オ)平成28年度前期海外登山奨励金 選考委員会報告
応募6隊のうち、4隊に交付内定
- カ)第3回海外登山懇談会について
 - 11/17(木)、オリセン
 - 講師及び講演内容
- キ)国内外に向けてのHP案について
- ク)その他
 - 海外登山奨励金の増額について
 - 海外イベントの翻訳予算化について
- (3)自然保護委員会
7月21日(木) 出席14名、委任1名

- ア) 三つ峠 常任研修会の実施
 - 6月18日～19日、39名参加
- イ) 山岳団体自然環境連絡会
 - 6月30日(於: 労山) 廣田・松隈
- ウ) 第40回自然保護委員総会について
- エ) 関東地区自然保護交流会について
 - 千葉岳連自然保護委員会主管、10/1～2、千葉県岩井海岸
- オ) 情報交換・連絡事項
 - 山はみんなの宝クラブが発足(港区生涯学習センター)
 - 山の日植樹祭(HAT-J主催)
- 10/2, 富士吉田・新倉山浅間公園
- 平成28年度常任委員について
 - 16名体制(新任: 岡田、学識経験枠移行: 岩崎)
- (4) 指導委員会
 - 8月1日(月) 出席13名、委任3名
- ア) 夏山リーダー検討会(7/21)
 - テキストづくりを進めている。

- イ) 山のグレーディング
 - 長野、富山、岐阜、新潟さらに群馬、北海道が検討している。
- ウ) S C コーチ養成講習会報告
 - 6/24, 25, 26 机上講習(都岳連)
 - 7/16, 17, 18 実技講習(明治大学, 昭島市 S C), 受講者: 11名
- エ) 指導員認定申請
 - 長野: 検定会 5/14～5/20
山岳指導員: 横澤充、阿南卓治
山岳上級指導員: 市川謙
- オ) 日体協表彰推薦書
 - 亀田行宣、西原斗司男、雨宮節
- カ) S C 指導員養成講習会・中国プロック合同開催について
- キ) 夏山リーダー検討会
 - 8/30(火) 19:00～都岳連会議室
- ク) 指導・遭対合同研修会について
 - 8/21、参加者11名予定
- ク) 登攀技術研修会について

- 10/1(土)～2(日)、長崎
- ケ) 日体協アンケートについて
- (5) 遭難対策委員会
 - 7月27日(水) 出席9名
- ア) 全山遭の報告(西内)
- イ) 指導・遭対合同研修会について
 - 8/20, 21 合同研修、10時集合
遭難対策は19名、指導は11名、
- ウ) その他
 - 10/8～10、西内がマウンテントレーニングの講習と認定を見学に英国へ行く。
 - ココヘリの推薦を日山協でも行う。

7. その他の重要事項

- 7月15日～8月4日
- (1) 国立登山研修所専門調査委員会
 - 7月15日(金) 於: J S C 会議室
尾形副会長
- (2) 海外登山奨励金選考委員会
 - 7月19日(火) 於: 岸記念体育会館
尾形副会長、小野寺事務局長、澤田国際委員長
- (3) 国際シンポジウム「日本と世界の山をみんなで考えよう」
 - 7月23日(土) 於: 日本大学文理学部
尾形副会長
- (4) 第63回弥彦たいまつ登山祭・第59回高頭祭 7月25日(月) 於: 弥彦山八木原会長
- (5) 日本山岳協会諸規程整備委員会
 - 7月25日(月) 10時30分
於: 岸記念体育会館4階特別室
國松・高橋副会長、中島監事、太田委員、尾形副会長
- (6) 東京五輪の件に関してスポーツライミング記者発表 8月4日(水) 於: 岸記念体育会館スポーツマンクラブ
八木原会長、尾形副会長、森下部長など

寄贈図書

寄贈本	山と溪谷社	「日本百霊山」とよだ時 著
雑誌	mountainkorea.com	「Man&mountain」2016 JULY No.322
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2016.9 No.977
会報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.831 2016.9
	Corean Alpine Club	「山」Vol.247
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第325号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第590号
	横浜山岳会	「山」1010号 2016年8月
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2016.8 No.460
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第537号
	高崎経済大学山岳OB会 常陸 民生	「我がまきはた」巻機山荘40周年記念誌
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第107号
	(株)労働ジャーナル社	「労政ジャーナル」No.1083
	(一財)教職員生涯福祉財団	「教職員の生涯設計」vol.93
	(株)シマノ	「Fishing Café」Autumn 2016 VOL.54
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2016Vol.273
	FEEC	「VERTEX」267
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.322
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2016.8
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.499
	中国登山協会	「山野 CHINA OUTDOOR」2016 08 総216期
	Korea Alpine Federation	「大山聯」2016August 08 Vol.212
	(公社)日本山岳会	「山」No.855
	東京野歩路会	「山嶺」No.1038
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」170号
	(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「草の目 木の芽」第123号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.681 '16.9
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」平成28年8月23日第419号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」8月号第435号
	(株)労働ジャーナル社	「労政ジャーナル」No.1084
	中平等 新一	「やまびこ山想会」会報 第166号
福岡山の会	「せふり」平成28年9月 No.376	

編集後記

8月11日祝日「山の日」が初めて施行されたのを機に、記念事業が展開された。松本を中心とした全国大会は参加者総数17、300人、盛大に開催されたようだ。全国展開できる本協会は、共済会の助成で各県独自の記念登山や講演会などのイベントが行われ、山のことを考えるには良い機会になったと思う。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第570号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)
 発行日 平成28年9月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和時「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬サンセットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

熊本岳連へ義捐金をお届けしました

本年4月14日夜熊本県を中心に大地震が発生し、益城(ましき)町では震度7を観測するなど大災害をもたらせた。私どもはすぐに会員の皆さんに救援募金を呼び掛けて活動をしてきましたが、8月末で一旦締め、私どもの気持ち(募金総額869,634円)をお届けすることにしました。

9月7日私が熊本へ向かい、工藤文昭会長の出迎えを受け、空港近くの益城町の仮設住宅暮らしの西本安幸理事長と共にまだまだ生々しい姿の全壊住宅、屋根にブルーシートを掛けた傾いた半壊住宅などを見るが言葉もありませんでした。



次いで熊本城の瓦屋根、しゃちほこの落ちた本丸やお濠へ崩れ落ちている石垣などを見るにつけ、復旧にどれだけ月日が必要になるのかが心配になった。

死傷者が比較的少なかったため、報道でしか現場を知らない我々にはそれほどの被害には思えなかったきらいがある。自然災害の恐ろしさを改めて知らされました。

夜は九州地区岳連会長(鹿児島は欠席)と熊本の佐藤敏雄副会長、斎藤弘毅事務局長が出席しての贈呈式、懇親情報交換会を行う。出席は福岡の足達敏則、佐賀の多田修、長崎の下田泰義、大分の波多野英哲、宮崎の古里亜夫、沖縄の雨宮節の各会長。

(会長 八木原開明)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

わたしの
ゴール
キーパー。

GK

 7ルマの保険

 すまいの保険

 先"竹カ"の保険

www.ms-ins.com

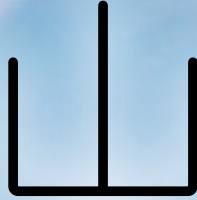
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます